



広島県天然記念物ホンシャクナゲ(上)、「かんほきょうの森」で行う自然観察(下)

3年目を迎え、新たな挑戦 森を起点に広がる地域連携



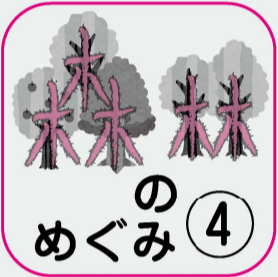
今回は、「かんほきょうの森」で始まる、森の再生と活用をさらに進める多彩な取り組みをご紹介します。森を借り受けて3年目を迎える今年度は、これまでの森林整備に加え、新しい挑戦に踏み出す一年です。

森林整備では、昨年度に引き続き、活動や管理が行いやすい環境づくりを目的とした歩道の整備を行うほか、水源涵養を目的とした人工林(ヒノキ林)の間伐・除伐を実施します。また、「かんほきょうの森」に自生する広島県の天然記念物ホンシャクナゲが開花していない状況を踏まえ、開花を促す環境改善にも着手します。



乾燥中のヒノキ材

さらに、森の資源の活用も進めます。昨年度の間に、森の再生と活用をさらに進める多彩な取り組みをご紹介します。森を借り受けて3年目を迎える今年度は、これまでの森林整備に加え、新しい挑戦に踏み出す一年です。



のめぐみ④

多くの人が期待する森林機能は、山地災害を防ぎ、国土を守る働きです。ただし、この機能は、いつも期待できるわけではなく、森林を健全に維持して

災害を防止する

健全な森林の維持が必要

いまで成り立ちます。明治時代とそれ以前の災害の記録によると、森林がほとんど無い原野での被害が顕著で、森林地域では土砂災害がほとんど発生しなかつたことから、「森林が発達している」という常識が広く浸透しました。その後、各地で植林が進み、原野がほとんど無くなった結果、

林の土砂災害が目立つようになり、森林の年齢や樹種が問われるようになりました。戦後の数十年間、広島市内から周辺の山々を見渡すと、あちこちに茶色の地肌が見え、花崗岩が風化した真砂土は水と養分が少なく、森林を早期に再生させることは困難とされてきました。



オオバヤシャブシの樹皮(上)、豪雨による崩壊は樹木の根より下で発生している(下)

と、樹皮がポロポロに剥けたオオバヤシャブシの老木が見つかります。菌根を持ち、やせた土地での先導役として期待されました。

春の鳥しよで、山肌を黄色に染めるフサアカシアも同じ目的で植えられたものです。2014年の広島土砂災害や2018年の西日本豪雨は、森林のある山腹斜面でも発生しています。大量の雨が急激に土中に浸透した結果、樹木の根より

面が発生したため、樹木の根系による「くい打ち機能」が発揮できず、土壌が硬くなり、豊かな森林を育成するのは当然ですが、予防的な治山工事、地滑りを感じる器材の設置も進める必要があります。(森林植物研究者 埴田宏)

第67回地区衛生組織活動資金募集(環境・健康募金)事業スタート

地域の「環境づくり」「健康づくり」の財源にご理解・ご協力をお願いします

今年度で67回目を迎える地区衛生組織活動資金募集(通称:環境・健康募金)は、「私たちの地域は私たちの手で」という思想のもと、地域ぐるみの公衛協活動を行うための活動資金を集めるものです。

昭和35(1960)年2月の広島県公衆衛生大会で、世界保健デー(4月7日)を「健康感謝の日」と定め、毎年募金活動を実施しています。



※今年は、大崎上島町の花「パンジー」をモチーフにしています。ポスターの中には、町にゆかりのある生き物(ツマグロヒョウモン、スナメリ、ミサゴ)が隠れています。ぜひ探してみてください。

市町の公衛協が集めた募金は、地区衛生組織活動資金募集委員会で集計し、市町公衛協、環境協、事務費に配分され、公衆衛生活動に役立てられます。

市町公衛協に配分された募金は、「食品ロス削減事業」「不法投棄抑止のための警告看板の設置」などの環境づくり事業、ウォーキングなどの「フレイル予防事業」「がん検診の受診勧奨」などの健康づくり事業に活用されています。公衛協の活動内容は市町によって異なりますので、詳細は各市町公衛協事務局にお問い合わせください。

環境協配分金は、全県共通事業重点メニューの活動支援グッズの作成、公衛協のリーダーを養成する各種研修の開催、公衆衛生推進手帖の作成、学習教材の貸し出しなどに活用しています。

事務費配分金は、募金事業をスムーズに進めるためのPR用ポスターやチラシ、募金回収袋の作成、振込手数料などに充てられます。

皆さまからお預かりした募金は、市町の公衆衛生活動のために使われ、地域の「環境づくり」と「健康づくり」に役立てられます。

公衛協が継続して活動するため、募金の主旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。(地域活動支援センター)